

前回部会における委員の主な御意見

7月16日（火）の第2回環境審議会資源循環部会における各委員からの御意見は下記のとおり
（資料の質問に対する事務局説明等は割愛）【五十音順】。

1 篠倉委員（事務局代読）

○意見 1

ミックスペーパーの対象品目が分かりづらいため、分別率向上に向けて分かりやすい広報が必要ではないか。

○意見 2

環境配慮行動について、行動していない人をどう行動変容させるかが重要である。

○意見 3

理念等について、事務局案は国の方向性等のキーワードが含まれているため特段意見はない。

2 寺園部会長

○意見 1

プラ製容器包装やミックスペーパーの分別率が低いのは、市民にとって分別が分かりづらいといったことも要因の一つとして考えられる。例えば、汚れの程度などについて動画などで周知するなど、双方向的な情報提供を検討してほしい。受入業者も交えた情報交換もできるとよい。

○意見 2

川崎市の臨海部には製造業も多いので、循環経済に向けて、製造側の意見も聞きながら進めていくことが重要である。

○意見 3

基本理念の案は大きく記載されており、上位計画である環境基本計画との重複を懸念したが、重複が無ければ問題ないかと思う。

○意見 4

循環経済は難しい課題であり、まずはプラスチックから始めていくのがよい。国の動向や社会の潮流を考慮すれば、次期計画の大きな施策の1つにあげるべき。動脈産業を巻き込みつつ、市民にもサポートしてもらい、自ずと循環経済的な産業が選ばれるような仕組みが必要になる。「どこまで、誰に、どんな巻き込み方を」ということを意識した議論が必要である。

3 藤倉委員

○意見 1

分別率の向上に向けて、横浜に比べて川崎は汚れていたら燃やすごみという感じを受けるので、どの程度の汚れであれば市が受け入れるのかといった視点での広報が必要である。

○意見 2

基本理念などの決定は、包含する産廃指導計画の現状や課題を整理してからになると思うが、個人的な意見としては、基本理念の案 2 は人間中心な印象なので、案 1の方がよい。

基本方針について、現行では「市民・事業者・行政の～」という表現が次期計画の案では「市民・事業者と共に～」となっており、主語が行政となっている印象を受けるため、市民や事業者の意識がより薄れるのではないか。

4 宮脇副部長

○意見 1

焼却施設の発熱量が下がると、自燃では間に合わないところも出て来るかもしれない。どこまでプラスチック類と紙を減らすのか、最終の目標は想定した方がよいのではないか。プラスチック類の混入率はかなり減らせるとは思うが、汚れたプラもありゼロは難しいと思うので、安定的な焼却の観点も考えて現実的な目標設定ができるといい。

○意見 2

リチウムイオンバッテリーの処理は全国の自治体で苦戦していると思うが、次期廃棄物計画で少し具体的な取組など書けるとよい。

○意見 3

理念や方針について、2050 年という中長期の目標を見据えており、国の方針などとも整合が図れており、全体的には良いかと思う。

○意見 4

今後の課題で高齢化は懸念がある。廃棄物分野はボランティア的な活動に依存しているところもある。先進的な企業も立地している川崎市らしさを活かし、どういう技術を取り入れて高齢社会の中でごみ処理を継続するのか、川崎市が先進事例となるように期待したい。

5 森川委員

○意見 1

アンケートなどに積極的に回答する方は環境意識の高い方だが、そういった方以外にどうアプローチをしていくかが重要である。収集の業務からも川崎市民で分別を出来ていない方は一定数いると感じている。

6 渡辺委員

○意見 1

市民や事業者は何をしてほしいか、説明を聞いても分かりづらかった。川崎市としての想いを分かりやすく伝えてほしい。